

知っておきたい音楽鑑賞術

基本マナー編

- 遅刻はご遠慮を！途中入場は指示に従って。

演奏中の入場は演奏家の集中力やまわりのお客様の鑑賞の妨げになります。余裕を持って演奏を楽しむためにも極力開演前にお越しください。もし、なにかの都合で開演時間に遅刻してしまっても勝手にホール内にお入りいただくことはできません。案内に従って静かにお入りください。尚、途中入場された場合は、休憩まで後方で立ってご鑑賞ください。



- 録音や写真撮影はいけない、その理由は？

肖像権や著作権を侵害するばかりではありません。“ピカッ”と光るフラッシュやノイズを立てるシャッター音等演奏家の集中力を妨げることとなります。



騒音編

音をたてるのはマナー違反。大勢の人が一緒に音楽を楽しむため充分気をつけましょう。

- ピーピー、ぶるぶる…。携帯電話やアラーム音。

音が良く響くホールでは、携帯電話のバイブレーションの音さえも大きなノイズになることがあります。開演前に携帯電話や時計のアラーム音の電源をオフにするのを忘れなく。



- むしゃむしゃ、ぱりぱり…。なにかを食べている音。

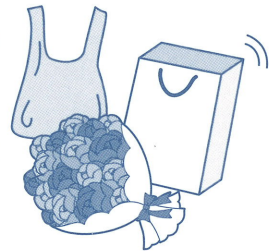
ホールでは、ガムを噛む音や包み紙を開ける音も思いのほかまわりの人の耳障りに。また、お腹が減っているからといって演奏中にもものを食べるのもマナー違反です。



お飲み物は休憩時間中にホワイエのドリンクコーナーをご利用ください。

- がさがさ、ごそごそ…。どこからともなく聞こえてくる音。

座席は狭いので、手荷物やプログラムはふとした拍子に落ちてしまいます。大きなお荷物や触れると音の出やすい花束はクロークや受付にお預けのうえご鑑賞ください。また、演奏中にプログラムを開いたりお荷物に触ったりする音も気になるもの。充分ご注意ください。



番外編

- 拍手のタイミングでお悩みなら…。

クラシック音楽の演奏会に行くのをためらう理由のひとつに「拍手のタイミングがわからない」ということがあげられるようです。演奏者にとって拍手はなによりもうれしい反応ですが、場合によっては緊張を妨げることにもなりかねません。

基本的な約束事としては、ソナタや交響曲のように1曲が3～4楽章で編成されている場合や、小品といわれる短めの曲が続いている場合は、楽章間、曲間では拍手をしません。また、曲によっては終わったからといって即座に拍手をするのも考えもの。ほんの少しの余韻も演奏の一部として楽しみましょう。

拍手のタイミングについては、プロの演奏者でも意見が分かれることもあり一概にはいえませんが、演奏者が演奏の姿勢をやめ、緊張を解いた時であれば確実です。一緒に音楽を楽しんだ観客のみなさんで盛大な拍手を演奏者に贈り、称賛の気持ちを伝えましょう。

